

府中町ふるさと歴史散策

〔第35回〕

文化財としての地名⑫ 昭和初期の町内会名(7) 山田

昭和初期の頃の字名は古い歴史に基づいた所が多く、現在も生き続けている。今回は「山田」について考えていくこととする。

(6) 字 山田

「この山田という地名の起りははっきりしないが、推測するにこの地域は森林が生い茂り、その間に溪流(山田川)がある。これを灌漑水として付近に田や耕地を作り、山に沿った田という意味で「山田」と言われるようになったのではないだろうか。」(菅原守編『芸州府中荘誌』から筆者が口語訳したもの)

「山田」の地名は古い時代の史料から登場している。中世の記録では「山田村」を始めとして、「南山大歳」、「山田村米原」、「山田村松本」が記されている。近世初期になる

と「杉森(相横)社」、「山田稲荷」、「久保田」、「川久保」、「引地」、「山田海蔵寺」などが、近世江戸後期の記録では上記の他に「大年」、「吹晴(山)」、「長尾」、「大谷」、「倉輪多山」などの字名が史料に記されている。

これらの小字名について、史料などに記載されているものを挙げていく。

- ・南山大歳は山田二丁目(大年地区)にあった。かつて村内には大歳神社と呼ばれる神社は「北大歳」、「(みくまり地区)」と「南山大歳」の2つがあったが、明治43年(1910年)の末頃に共に多家神社に合祀され、廃社になったため、神社の起こりなども明らかになっていない。
- ・川久保「山田川と榎木川が

合流する付近を「川久保」と言われていた。江戸期の干天続きに惣社の大呑氏がこの交差点水路上に祭壇を設け、雨乞い神事を行ったとの記録がある。

・山田村米原、「山田村松本」については、史料の中で字名として記されているが、現在の場所は特定できていない。

・その他、現在では引地公園や大年橋として字名が残っているところもある。

「山田」地区は府中町の中央部に位置し、山田川沿岸と山麓の緩斜面に集落が分布する。現在の住居表示では山田一丁目から山田四丁目の辺りをさしている。

この地区の文化財としては、山田稻生神社(山田一丁目山田公会堂そば)、豊作祈願

の牛祭り、十二神祇神楽、吹晴地区の貝塚跡、龍仙寺(写真①)などがある。

龍仙寺は大永年間(1521~1527年)に真言宗として江本寺地区(現在のみくまり二丁目付近)に建立され、間もなく浄土真宗に改められている。江戸時代初期の寛永年間(1624~1643年)に江本寺から現在地に移転建立されたとされている。江戸時代末期から浅野藩ではお寺や神社を使つて農民の子どもなどに学問を教える「寺小屋」を始め、龍仙寺も村内の寺子屋の一つとしても使われた。

明治6年(1873年)には龍仙寺の本堂にて「開明舎」と名づけられた町内で初めての小学校が設けられた。(小

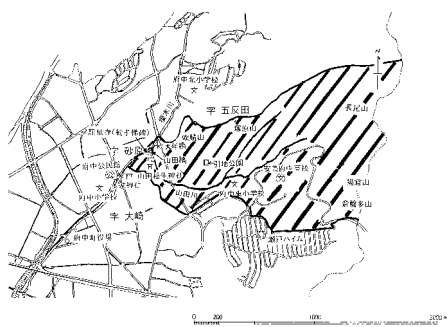
学校はその数年後には児童数の増加などにより、本町二丁目(現在の府中小学校)に移転した。)龍仙寺境内にある勸孝梯碑(写真②)は文化年間(1804~1817年)に村内の孝養のものを顕彰するために建てられたものである。当時は儒教の教えが広がっており、孝(親によくつかえること)と、悌(目上の人や兄に従うこと)によつて浅野藩から褒美を貰つた人達の名前が記されている。

府中町文化財保護審議会委員

熊野 俊浩

問い合わせ

教育委員会生涯学習課
☎286-3272



地図:「字 山田」(斜線の部分)とその周辺図



写真②: 勸孝梯碑
(龍仙寺の境内)



写真①: 龍仙寺
(山田一丁目)